

朽木峠
 栢原や東津野、葉山の津野山郷から佐川を経て高知城化に至る往還であり、近道でもあった。南北朝時代は名僧義堂絶海が越え、幕末には勤皇の志士たちが往復し、坂本龍馬が脱藩していた。近年では牧野富太郎も植物調査で歩いている。

三間の川
 国道197号へ朽木峠から5.0km

昔は葉山の三間の川の人と十賀野の川の人々が共同で道の草刈や整備、馬頭観音の祭りの世話をしていたという。

蟠蛇森は佐川町・須崎市・津野町(旧葉山村)にまたがり、県立自然公園にもなっている。名前の由来は須崎市との境界近くにある佐川町のカラ谷の洞穴に大蛇が棲んでいて、この山を縄張りしていた。その大蛇は美しい女に化身して、人々を惑わしたという伝説から名付けられたという。山頂には一等三角点、四国百山でもある。

須崎市街の背後にそびえる存在感のあるどろりとした姿とくろくを巻いた蛇がねそべっている？

蟠蛇森



工佐龍馬神社
 朽木峠から5.5km

川の内組にもくまの「小字」が記されている。残して伝えてほしい。

峠を越える時は、何だか独りごきの感慨がある。山に向かって上りから下りへ変わる地点。2つの漢字を考えたなあと。あてはめて移動していた時代。昔の人はどんな思いで越えていたのだろうか。峠にまつわる喜怒哀楽も、いろいろな物語もあつたことだろう。

朽木峠は関所感が漂う。展望台からは葉山の風景が見える。簡易トイレやベンチも設置されている。旅の安全と馬頭観音が祀られている。

春になったばかりの山はいいなあと思う。春夏秋冬、そして春。四季が巡ると木には年輪が刻まれる。冬の寒さにも耐えて生きてきた木たちの生命の奇跡だなあ。

快い日差しを春を感じてうれしくなる。ゆっくり座りながら糸田やかな幸せを味わう。

2年に1回、遺囑記念に登ってきた人に出会えた。

昭和30年代までは山頂から川の内まで続く山道があった。スギ、ヒノキの植林の沖ゴカヨウオウレンが自生しているところがあった。鷹の集落にはムシズメが美しく咲いていた。

時代とともに野山の様子も変わっていく。

同じく昭和30年代、桑田山から蟠蛇森までの植物調査によるとトウダイグサがたくいん生えており、カラ谷ではオオツツラフシが野生し、南の丘ではアロハハシマスリが盛に自生。これらが白石工場建設後に形骸がなくなる。とある。植物も随分変わってしまっているようだが、現代と重ねると興味深いと思はれる」と桑田山研究家の山本さんと話して頂く。

桑田山の由来

昔弘法大師が巡行で神田村(須崎市・津野町)まで来た時に、桃の花が一面に咲いていた。前方の美しい山を見て「桃の花が咲いた山」とうたったことから名付けられたと伝わる。

雪割桜は大崎鍬吉さんが愛媛から三本の枝をもらってきて接ぎ木をし、一つだけ残ったものを接ぎ木を重ねて増やしていったのが始まり。(四国百山より)

ツバキカンサウラ

ミカン畑

モリレー

熊鷹神社

民家

桑田山

雪割桜と葉の花と水色の青空がとけあつて、まるで桃源郷

南斜面は太陽に照らされてポカポカ。浅春の里山は暖かく気持ちいい。アンブレラ 日たまり

そんな日差しが春を感じていい。

車で上る

スギ林

車道

48電柱から眺め良好

展望台は上がりた。

金塔

広い山頂は明るくて見晴らしも最高。

2025.3.9 初登頂

アセビやツツジ、ムラサキ科の植物

蟠蛇森

一等三角点、769.8m

今回訪れることができた。お下り。このあたりに石鎚山と記する碑と不動明王と役行者の石像があるという。ここも山岳信仰の山だった。

明治時代に一等三角点が設置され、一等三角点で作った三角測量を重ね、地図の骨組みになる一等三角点網が作られた。一辺45km、高知県内は6基。万葉集と表記。